

# 平成25年度歴史的風致維持向上推進等調査 報告会

日時：平成26年3月5日(水)

10:00～17:00

会場：中央合同庁舎2号館地下2階 講堂  
(東京都千代田区霞が関2-1-2)

主催：国土交通省都市局公園緑地・景観課

## ～プログラム～

**9:30～10:00 受付**

**10:00～10:15 開会**

**10:15～11:30 第1部**

- ・「他地域講師招致による数寄屋等建築技術の職人育成研修実施方策の実践的検討」  
小田原市(神奈川県小田原市)
- ・「建築士等が災害時に歴史的価値保全復旧手法を提示する活動のためのマニュアル整備と、当該活動への参加意識調査を通じたマニュアルの実用性向上」  
公益社団法人静岡県建築士会(静岡県)
- ・「京町家等保全のための専門家と所有者の双方登録データベース整備の実践と課題検証」  
NPO法人古材文化の会(京都府京都市)

**12:20～14:25 第2部**

- ・「家財整理等の利用条件整備による潜在的町家等利用喚起の試行による事業化検討等」  
長浜まちづくり株式会社(滋賀県長浜市)
- ・「観光案内や休憩所等としての空き家の試験的利用による課題抽出及びその継続実施の可能性検討」  
国府地区まちづくり協議会(三重県志摩市)
- ・「伝統的空間(こみせ等)維持のための収益利用方策の地域外を含めた提案募集による検討等」  
黒石市(青森県黒石市)
- ・「歴史的価値と現代的価値の双方からの建築物評価をもとにした地域のあり方共通認識形成の試行等」  
山王町家再生協議会(山形県鶴岡市)
- ・「伝統的外観を保全する防風垣(間垣)の新工法開発と維持管理作業の支援体制検討」  
輪島市(石川県輪島市)

**14:35～16:40 第3部**

- ・「石製模型を活用した実験等を通じた私有石橋の点検、修理工法の検討」  
宇佐市(大分県宇佐市)
- ・「豪雪地域における茅葺き民家の快適性・利便性改善手法の実証研究を踏まえた開発」  
荻ノ島地域協議会(新潟県柏崎市)
- ・「調達可能な建材による歴史的建造物修理工法の試験施工や耐久性検査等を通じた開発」  
NPO法人しらかわ建築サポートセンター(福島県白河市)
- ・「現代の建材流通と施工技術に適合した「なまこ壁土蔵」の修理工法の試験施工等を通じた開発等」  
NPO法人チャチャチャ21(福島県須賀川市)
- ・「古瓦流通体制構築の可能性検証や新瓦による古瓦的外観表現技術等の検討及びそれら技術の他地域との連携による安定的継承方策の検討」  
江津市(島根県江津市)

**16:50～17:00 閉会**

報告会はどなたでもご参加いただけます。参加希望の方は2月26日(水)までに下記宛に電話またはFAXで、所属団体、氏名、連絡先(携帯可)をご連絡下さい。先着順で参加希望者が定員を超えた時点で、受付を終了いたします。

◇お問い合わせ

国土交通省都市局公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室  
TEL 03-5253-8954 FAX 03-5253-1593



# 歴史的風致維持向上推進等調査について

歴史的風致や景観を形成する町家等の建造物を保全・活用するため、その隘路となっている資金や人材の確保、修理工法等の技術的知見の確立といった共通課題について、課題を抱える地域を対象として実証等により解決策を導き出す取組の提案を募集し、優れた取組提案を選定して応募者へ調査を委託しています。

実施された調査成果を全国に普及し、他地域の課題解決に役立てることで歴史的風致維持向上、良好な景観形成の推進を図っています。

この報告会では、平成25年度において、全国13地域で実施した当該調査の実施内容・結果をテーマごとに分けて3部制で報告します。

【第1部テーマ】 広域的な歴史まちづくりの専門家組織の育成

【第2部テーマ】 民間資金の導入による町家等歴史的建造物の修理・活用等の促進

【第3部テーマ】 伝統工法と現代工法の組合せによる歴史的建造物保全システムの構築

## 第1部（10：10～11：40）調査概要

「他地域講師招致による数寄屋等建築技術の職人育成研修実施方策の実践的検討」 小田原市（神奈川県小田原市）

数寄屋建築の形式を取り入れた明治～昭和初期頃の建造物は、小田原市の歴史的風致の形成に重要な役割を果たしているが、近年その保全技術が十分に継承できていないため解体される事例等が増加している。

本調査では、この対応として職人育成研修の実施等を考え、京都市や金沢市といった伝統技術継承の先進事例に学びながら、保全対象の絶対数が少なく伝統技術の維持が難しい小田原市のような都市における技術継承の最適なあり方について検討する。

具体的には、他地域講師の招聘を含む伝統技術研修の実践を通じて効果的な研修カリキュラム編成を検討し、行政と職人、建物所有者等一般市民が連携し、職人育成組織を持続的に運営するモデルを提示する。



「建築士等が災害時に歴史的価値保全復旧手法を提示する活動のためのマニュアル整備と、当該活動への参加意識調査を通じたマニュアルの実用性向上」 公益社団法人静岡県建築士会（静岡県）



大規模地震が発生した場合、被災建築物には迅速さや経済性を一定程度犠牲にしても歴史的価値をより多く残す補修や補強等の方法（「歴史的価値保全復旧手法」という。）が求められる場合がある。

本調査では、建築士などの専門家派遣調整、派遣後の被害状況調査、歴史的価値保全復旧手法検討及び提示のマニュアルについて、静岡県における災害時を想定した図上訓練や実際の歴史的建造物でのケーススタディを通じて検討、作成を行う。

また、この成果を提示したうえで建築士に活動参加意向等についてのアンケートを行い、マニュアルの実用性向上を図る。

「京町家等保全のための専門家と所有者の双方登録データベース整備の実践と課題検証」

NPO法人古材文化の会（京都府京都市）

京都や周辺地域には町家等の歴史的建造物が数多く存在するが、その維持管理技術を有する専門家を知らないといった悩みを所有者は抱えている。

また、専門家にとっても所有者との接点が確保されなければ、その技術や知識が活かさないことから、歴史的建造物の減少が加速されることが懸念される。

このため、本調査では、所有者と専門家の双方を登録するデータベースを整備し、データベース管理者が所有者と専門家を仲介する仕組み（「残したい建物見守りシステム（仮称）」という。）を検討し、試験的な構築、運用過程において得られる知見から、データベースの設計手法や、システムの持続的な運営に必要な寄付等について検討する。



## 第2部（12：20～14：25）調査概要

### 「家財整理等の利用条件整備による潜在的町家等利用喚起の試行による事業化検討等」

長浜まちづくり株式会社（滋賀県長浜市）

町家等の伝統的建築物は、生活様式の変化等により空き家化していることが多い。一方で、平成24年度に奈良県を対象に行われた調査の中で、空き町家の活用を図る際に「荷物がある等貸せる状況にない」と所有者から断られる事例が存在した。そこで本調査では、滋賀県長浜市において、空き町家等をいつでも貸出ができる状態にするため、家財整理等を所有者に代わって行うサービス（「風通し」という。）を試行し、効果検証やサービス利用料設定のあり方など事業化に向けた検討を行う。さらに、現代の生活様式と伝統的な空間の併存を望む者による町家利用実現に向けてニーズ把握を行い、期待される利用形態や改修方法とその事業採算性確保の方策を検討する。



### 「観光案内や休憩所等としての空き家の試験的利用による課題抽出及びその継続実施の可能性検討」

国府地区まちづくり協議会（三重県志摩市）



サーファーや海水浴客に人気の国府白浜に隣接している三重県志摩市国府地区は、柳田国男が「たとえ様もない美しい印象であった」と記述した「榎垣」が特徴のまち並みであるが、空き家の増加によりその維持に課題が生じている。本調査は、サーフィン目的等の来訪者に観光案内や休憩等のサービスを提供する「おもてなし処」として空き家を活用する取組を試験的に実施し、その過程で得られる課題や継続実施の実現可能性の検討を行うものである。また、借り上げ対象とする空き家の選定の際に実施する建物調査では、地域内の信用が高い民生委員の協力を得て、高齢である所有者との対応を円滑に進める手法を導入し、その効果を検証する。

### 「伝統的空間（こみせ等）維持のための収益利用方策の地域外を含めた提案募集による検討等」

黒石市（青森県黒石市）

青森県黒石市では、「こみせ」と呼ばれる庇状の屋根を持った歩行者通路が重要な景観要素となっているが、重要伝統的建造物群保存地区である中町では伝統的空間構成が概ね継承されている一方で、周辺地区ではその維持管理の負担から建替の際に消失することが多く、伝統的な「こみせ」はほぼ失われていく現状がある。本調査では、「こみせ」の再生や、その維持管理負担の軽減について、収益利用を前提にアイデアをコンペ方式で地域外を含めて幅広く募り、優秀なアイデアを選定する。選定されたアイデアについては市民への説明会等（アンケート調査）や、当該地区の「こみせ」所有者へのヒアリングを行い、これを踏まえて地域内での議論を活性化できるかを検証する。



### 「歴史的価値と現代的価値の双方からの建築物評価をもとにした地域のあり方共通認識形成の試行等」

山王町家再生協議会（山形県鶴岡市）



山形県鶴岡市の山王商店街には、明治期の和風建築や大正・昭和初期の和洋折衷建築物が残っているが、その歴史的価値について認識がされていないため、どういった特徴的外観要素に価値があり、今後残していくべきか否かについて、地域での明確な共通認識が形成できていない。本調査では、特徴的外観要素の実態調査を行い、それを残しつつ現代生活様式にも対応した改修計画案を作成し、安全性や省エネ性能、バリアフリー性能等の現代的価値での建築物評価を実施する。また、改修後の町並みイメージを作成して地域外の人々が訪問価値を感じるか等を調査し、それらの結果を踏まえて、地域のあり方についての共通認識の形成を図る。

### 「伝統的外観を保全する防風垣（間垣）の新工法開発と維持管理作業の支援体制検討」

輪島市（石川県輪島市）

能登半島沿岸部の景観を特徴付ける要素となっている伝統的な防風垣（間垣）について、維持管理等の問題から伝統形式によらない塀への更新が進んでいる。本調査では、石川県輪島市において、伝統工法が持つ外観上の特徴も備えつつ、所有者のニーズに応える新しい工法を検討し、これを試験的に設置してその有効性を検証する。また、材料となる竹の伐採から補修作業までの維持管理過程や、火災発生時の延焼防止のための解体作業等を所有者以外の者にも体験してもらう体験会を開催し、これを通じて間垣の維持管理作業に協力する人員等を登録する制度（「間垣サポーターバンク」という。）の整備等の間垣所有者の維持管理労力を軽減する方策を検討する。



## 第3部（14：35～16：40）調査概要

### 「石製模型を活用した実験等を通じた私有石橋の点検、修理工法の検討」

宇佐市(大分県宇佐市)

宇佐市院内町には「石橋の貴婦人」として名高い鳥居橋をはじめとする大小75基もの石橋群が現存しており、地域の景観を特長づける重要な構成要素となっているが、石橋の多くは私有であり、経年劣化によって石積みの割れや膨らみなどが目立ち始め、その保安全管理が課題となっている。

本調査では、宇佐市院内地区に多く残る私有石橋を対象として、実際に使用されているものと同じ石で製作した1/7サイズの石橋模型を活用した実験や、所有者へのヒアリングを通じて、地域住民にも使用可能な点検・修理マニュアルを作成する。

また、マニュアルを用いた観光ガイド等による石橋の点検巡回や行政との役割分担、連絡体制等を検討する。



### 「豪雪地域における茅葺き民家の快適性・利便性改善手法の実証研究を踏まえた開発」

荻ノ島地域協議会(新潟県柏崎市)



新潟県柏崎市荻ノ島地域は、茅葺きの環状集落という特徴的な農村景観を形成しているが、近年空き家が増加し、茅葺きの集落景観維持が大きな課題となっている。

本調査では、豪雪地域における茅葺き民家の弱点となっている快適性や利便性を向上させる方策として、茅葺き民家の景観上の特徴を保全しつつ、雪下ろし等の維持管理上の労力を軽減することや、断熱性能の向上を図る等の工夫について、比較的重いと考えられる同地域の雪質等を踏まえて検討する。

また、実際に空き家となっている茅葺き民家を活用して当該工夫を実施し、景観上の影響確認や冬期の効果計測及び有効性検証を行う。

### 「調達可能な建材による歴史的建造物修理工法の試験施工や耐久性検査等を通じた開発」

NPO法人しらかわ建築サポートセンター(福島県白河市)

福島県白河市に残る土蔵等の歴史的建造物は、東日本大震災において、その多くが被災し、修理の際に材料調達や職人確保等の課題が生じたことから、歴史的建造物の保全には、地域内での伝統的技術の蓄積や、隣接地域との技術融通、建材調達ルートの確保等を平常時から実施しておくことが重要であると分かった。

そこで本調査では、昨年度試験施工を行った地域内で調達可能な材料を用いた真壁造りによる新工法での修理箇所の耐久性等の検査・分析を行うとともに、大壁造りによる新修理工法についても新たに試験施工を通じて研究開発を行う。

また、試験施工で用いた建材の安定的な調達に向けた体制整備と、隣接地域まで対象を広げた職人研修実施による広域的な技術継承体制について検討を行う。



### 「現代の建材流通と施工技術に適合した「なまこ壁土蔵」の修理工法の試験施工等を通じた開発等」

NPO法人チャチャチャ21(福島県須賀川市)



福島県須賀川市中心部には「なまこ壁」の土蔵が散在しており、地域の景観を特徴付ける要素となっているが、修理にあたっては材料調達や技術継承の問題から困難な状況にある。

本調査では、東日本大震災時に被災した「なまこ壁土蔵」を題材に、現代にも流通する代用材を使って伝統的な「なまこ壁」に近い外観を保ちながら修理する工法について、試験施工等を通じて開発するとともに、その工法も活用しながら、物販や飲食等の店舗といった収益性の高い用途での利用を前提とした土蔵の改修方法を検討し、それらの成果を提示することにより土蔵所有者の意識がどのように変化するかについて調査する。

### 「古瓦流通体制構築の可能性検証や新瓦による古瓦的外観表現技術等の検討及びそれら技術の他地域との連携による安定的継承方策の検討」

江津市(島根県江津市)

島根県江津市を含む石見地域は日本三大瓦産地の一つ石州瓦の産地であり、赤瓦を葺く住家がこの地域の景観を特徴付ける要素となっているが、昨今では、瓦を葺かない屋根形式が選択される傾向が増大する等の課題が生じている。

本調査では、瓦の価値が再認識されることを目指し、色ムラが多い古瓦の外観表現に対する評価に着目し、古瓦における古材流通体制の実現性や古瓦利用技術、新瓦でも古瓦の様な外観表現を可能とする工法等を検討する。さらにこれらの成果を踏まえて石見地域以外の瓦生産地域や赤瓦利用地域との連携方策を検討する。

